

その他の金属製品製造業における通路を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	11~12	北側の工場内で塗装中、作業台を跨いだ時に左足が砂利で滑って、右足のヒザ下を打撲し骨折した。	69	1~9
1	13~14	工場内にて、鉄鋼の入出荷を行うためリモコンを使用し、鉄鋼の位置等を確認しながらクレーンを操作中、足元にあった鉄鋼を置く台（高さ20cm）に躓いてしまい、左腕を骨折した。	43	1~9
1	11~12	工場内の休憩室にあった納品書を社長（工場内にいる）に届けようとした際、床マットに右足が引っかかり、左顔面（打撲、キリ傷）及び左ひじを強打した。	69	—
2	10~11	半製品の置かれている場所（現場）で足が引っ掛かり、手をついた時、ヒビが入った。	55	10~29
2	11~12	本社工場において、出来上がった鉄製品（約400×1500×5mm×20個、全部で約30kg）を出荷の為に、台車に乗せて工場外に運び出す作業中、台車の片輪が出口シャッターの溝に引っ掛かった為、台車を手前側に動かしたところバランスを崩して転倒した際、製品を受け止めようとして負傷したものである。	34	10~29
3	17~18	作業場で段ボール箱の荷物を車に詰め込むべく出入り口へ運んでいたところ、床に置いてあった木材に躓き転んだ為、左太ももを強打した。	55	1~9
3	11~12	鉄工所工場内を歩いて移動中、作業のため準備しておいたキャブタイヤ（太めの電線）に足が引っかかり転倒し、地面に敷いてある鉄板に左膝を強打し骨折した。	68	1~9
4	11~	NC施盤からフライス盤へ移動しようとして振り向き、1歩目の左足が内側に滑り体が浮き上がる様な形になり、左側骨盤から尻もちをつくように強打した。床は若干滑	45	100~

	12	る状態であり、且つ、安全靴が新品で底が硬く滑りやすい状態であった。		299
4	10～ 11	休憩時間に作業場付近で配線につまずき転倒した。（配線は手元が暗かったため本人が準備した。）	80	10 ～ 29
4	11～ 12	工場会食場にドアを開けて入る時に、左足が段差（約15cm）で躓き前方に転倒し、両手で体を支えたが右肩腱板を断裂した。	55	30 ～ 49
5	15～ 16	工場内にて通路を移動中、体が不安定になり、脇のラックの支柱に右手をかけようとしたが、バランスを崩し転倒し、地面に左手をつき負傷した。	57	30 ～ 49
5	11～ 12	第2工場内において、バケットの吊り上げ、吊り下げ作業をしている時に、足元が悪く（コロコン）隙間に足をとられ、不安定な体勢になり転倒しそうになったので踏ん張った時に右足を捻り、かばおうとして首や腰を捻って負傷した。	35	1～ 9
6	16～ 17	工場内において、自動車部品の製造作業中、道路を通らずに移動しようと台車を跨いだ際、跨ぎ切れずに台車に躓いて床に倒れ、右肩付近を強打し負傷したものである。	64	30 ～ 49
7	9～10	スケヤシャーリングでのSCGA270E1.0×275×80、204枚約35kg加工板製品を手で持ち、運ぶ際に足元のエアホースにつまずき転倒、持っていた製品に胸をぶつけた。	42	10 ～ 29
7	14～15	取引先に納品物を納めに行き、積み降ろしをするために、フォークリフトに乗り、車の側まで移動したところ、フォークの爪の幅の調整が必要であったので、フォークリフトから降りた際に地面のへこみに左足をとられ捻り左足首を負傷した。	48	30 ～ 49
7	15～16	工場内通路において、ダクトからの油漏れ箇所があり、製造部次長が漏れた油の清掃をしていたが、被災労働者がそれに気付かず通り掛かり、油で足を滑らせ転倒し、その際、左手首及び左足付け根付近に打撲を負った。	67	50 ～ 99
		工場内で、シャッター下地溶接中に、汗で身体が濡れていたため感電をした。このままでは感電死の恐れがあるかもしれないと自分で判断をしとっさに足場の上か		1～

7	13~14	ら飛び降りた。その時は我慢が出来、終了迄仕事をした。その日の夜になって左足の腫れが酷く、痛みも伴った。左足第2、3中足骨骨折と診断される。	26	9
7	14~15	発酵攪拌機の組み立て中、暑さが厳しかったため早めの休憩に入り、顔を洗おうとした時、足元が砂利で足首をひねった。	52	1~9
7	15~16	工場内で、棚上に置かれている製品を入れるためプラケース箱を取ろうとした。(棚の天面に載せあった。)片手で棚板に掴まり、もう一方の手で箱を取ろうとしたところ、箱を取ったと同時に棚板を掴んでいた手が滑って離れてしまい、後方に倒れ込んだ。倒れ込んだ所に台車があり、その台車の金具部分にて、背中と腰を打撲した。	79	1~9
7	20~21	作業場にてPC作業(データ入力)を行なったあと、他作業に移ろうとして椅子から立ち上がる際、床に躓き転倒しそうになった。咄嗟に付近に置いてあるゴミ箱に左手を出して支えようとしたところ、薬指に力が集中して骨折した。	53	500~999
7	6~7	事業所内で押出した形番の、最終の班長確認用型材サンプルを型材切断機で採取し、サンプル(750g)を両手で持ちながら置き場へ歩行中に、左足を滑らせた。体勢を崩し転倒しそうになり、支えていた軸足である右足のふくらはぎを負傷した。	48	50~99
9	16~17	当社作業場に於いてクレーン操作中、床に躓き転倒、左手を着いた時手首を骨折した。負傷後は通院しながら仕事をしていたが、骨折した時の影響で左拇指付根の筋が切れた。	64	10~29
9	11~12	会社工場内において、ゴミを捨てにゴミ捨て場に向かう途中つまずいて転倒し手にゴミ袋を持っていたため膝を打ちつけてしまい負傷した。	49	30~49
9	0~1	工場内、自身の現場へ向かい歩行中、通路の油の拭き残しで右足を滑らせ転倒。その際、左膝を床面に打ちつけ受傷した。	62	100~299
	17~	業務終了後、工場内建屋の照明電源を切り、絶縁エアスクラップ用の束取機と柱の間を通っていた、その際薄暗く、床面が見えにくい状況であった為、排水溝鉄板蓋		300

9	18	の端が起きあがっており（2cm程度）その部分を踏んだ際に左足首を捻ってしまった。	51	～ 499
10	16～ 17	当社工場内に於いて鉄製のパレット（縦110cm・横110cm・高さ47cm）の修理作業を終えそのパレットにオイルがかなり付着していたので、手を洗いに休憩室の水道に行こうとした際に、水道付近まで行き手を洗おうとした時、足元にゴキブリがいるのに気づき驚いて後方に飛び跳ねてしまいその際に滑って左手を着いたため左手首を負傷した。着用していた安全靴にもオイルが少し付着していた。	60	～ 29
10	19～ 20	加工ライン後工程にて通常作業中、穴明機前から高周波焼入工程へ移動する際に足元に敷いてあるマットにつまずきバランスを崩して転倒した時、仕掛品が入っているポリ容器に背中を強打した。	37	～ 49
11	15～ 16	会社の資材ヤードにて部材用ラック（ユニットという）を組み立て作業中、縦の支柱（約2m）に横手摺り（1.2m、3.3kg）を高さ1.8mの部分に取り付ける際、左手で手摺りを逆手で支持し、ハンマーで支柱に手摺りを打ち込んだ際、誤って左手小指先端部分を叩いて負傷した。	65	1～ 9
11	8～9	出勤時に1F会社入口から入り、タイムカードを押しに行こうとした時に、床で滑って転倒、その際に右手を床につき、負傷した。	70	～ 29
12	7・8	会社へ出勤し、事務所へ入室した所、床が雪で濡れていた所があり、そこで足が滑り、仰向けに転倒した。その時、左手をつき、左手首を骨折したものである。	56	～ 49
12	9・10	スチール建具組立工場内の大掃除をしていた際、溜まったゴミを別棟倉庫に持って行こうと両手にゴミ箱を持ち、出口のスロープを渡ろうとしたとき、雪で濡れ滑りやすくなっていた為、転倒し腰を強打した。その際、安全靴は履いており、ゴミ箱2つには2kg以内のゴミが入っていた。	40	～ 29

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html